

＜体育＞改善のポイント

（1）現状の分析

体育の授業に対する関心はどの学年も高い。しかし「知識及び技能」の観点でみると、習得に個人差が見られる。日常の運動習慣の差が、技能習得の差に影響していることが考えられる。また、投力や握力については、全体的に課題が見られる。

「思考力・判断力・表現力」の観点でみると、体を動かすことや道具を操作することを楽しむことにとどまることが課題である。児童が運動に取り組む中で、よい動きや考えを引き出すために、教師が意図的に価値づけする。そのために、引き出したいよい動きや考えを授業設計の時点で教師が計画しておく必要がある。また、教師が価値づけた動きや考えを共有する場面を設定したり ICT を活用したりして、児童が見つけた考えや動きのコツ等を言語化して表現できるようにし、児童同士で学び合えるようにする。

「知識及び技能」の段階で、系統性を意識した技能のコツやポイントを視覚的に提示して児童がスモールステップで技能向上を意識して運動に取り組めるようにし、自分の課題にあった工夫を考え、試行錯誤する中で、「学びに向かう力、人間性」を育んでいきたい。

（2）課題

1	技能面の向上に個人差があること。(特に投力、握力)
2	自分の課題にあった工夫を考え、試行錯誤して運動すること。
3	健康や安全に対する知識を生活の中で十分に生かしていないこと。

（3）授業に取り入れたい改善策

1	個人の課題を見つけるために技のポイントを視覚的に掲示して、スモールステップで段階的に技能の向上を図る。
2	ペア学習を取り入れたり、ICT 機器を活用したりして、自分の動きを客観的に見ることができるようになる。
3	運動に安全、安心に取り組めるように事前指導を徹底し、身近な生活と関連付けて健康と安全への意識を喚起させる。

R	5	観 点		
学 年	知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・ボールを投げたり、体を回転させたり、左右の手足を交互に動かしたりする動きなどの動きがぎこちなく、スムーズに動かせない児童が多くいる。 ・体づくり運動で、いろいろな動きを繰り返すと、動きの習得は速く、動きが滑らかになっている。 ・プールのシャワーを頭から浴びられない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・イメージしたことを表現することができる児童が多くいる。 ・友達にすすんで働きかけることができる児童が多くいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体を動かすことが大好きで、とても意欲的に活動している。 ・集合、整列も早く動けるようになった。
	改 善 の ポ イ ン ト	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間、準備運動の中で、色々な体づくりの動きの活動を取り入れ、体幹を鍛える。 ・体ほぐしや体づくり運動を月に一度取り入れる。 ・様々なボール運動を行い、投力をつけていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の動きから学んだり、教え合ったりできるように、時間を確保する。 ・教え合い、作戦の立て方などのやり方を分かりやすく提示する。 ・毎時間、学習の振り返りを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が遊び感覚で楽しめる場の工夫をする。 ・さらに楽しくなる工夫を話し合うことで、より活動を活発にしていく。
2	現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・安全に気を付けて活動できる児童が多い。 ・道具を正しく使うことができる。 ・日常生活での運動量の差で、上達や技の習得の速さに差が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動のポイントを考え、発言することができる。 ・友達の動きでよいところを伝えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体を動かしたり、自ら楽しもうとしたりする児童が多く見られる。 ・集合や整列に遅れる児童や、話の聞き方が良くない児童が見られる。
	改 善 の ポ イ ン ト	<ul style="list-style-type: none"> ・安全、安心に取り組めるように、事前指導や準備運動を丁寧に行う。 ・目標を細かく設定し、見通しをもち、一つずつ達成できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が見るポイントを手本などで視覚化する。 ・タブレットを活用し、友達の動きのよいところを見て取り入れられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目標を達成する楽しさを意識させ、できたことを価値づける。 ・授業のルールを徹底させ、安全な学習環境を整える。

3	現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な技能を習得している児童とそうでない児童がいる。 ・運動習慣に差があり、日常的に運動に親しむ児童とそうでない児童がいる。 ・安全に気を付けて活動できる児童が多い。 ・日常生活での運動量の差で、上達や技の習得の速さに差が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の動きをイメージし、運動のポイントを考え、発言することができる。 ・友達の動きでよいところや改善したほうがよいところを伝えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動に意欲的な児童が多く、自ら楽しもうとする。 ・用具の準備・片付けを進んで行う児童が多い。
	改 善 の ポ イ ン ト	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な技能を習得できるようにICT資料やワークシートの活用をする。 ・朝遊びや朝体育、クラスあそびなどを定期的に行う。 ・安全に取り組めるように、安全指導や準備・整理運動を丁寧に行う。 ・個人に合わせた目標を細かく設定し、見通しをもち、一つずつ達成できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・技能ポイントや手本などでICT機器を活用する。 ・少人数でのグループ学習やめあてをお互いに伝え合う学習などを通して、友達と高め合う学習を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が考えて、ゴールイメージをもった単元指導系計画を立てる。 ・目標を達成する楽しさを意識させ、小さな「できた」を称賛し価値付ける。 ・授業のルールを徹底させ、安全な学習環境を整える。
4	現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な技能を身に付けている児童が多いが、運動の内容によって個人差は大きい。 ・体幹の保持、腕支持など、基礎感覚が未発達な児童が多くいる。 ・児童が活動に取り組む中で、活動に熱中するあまり、安全に関する意識が希薄になることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小グループでの学習では、友達のよさを見つけて伝えたり、アドバイスをしたりして、技能の向上を図っている。 ・意欲をもって運動に取り組んでいるため、自分が試技することに夢中になってしまい、自分の動きの課題やそれを意識した運動に取り組むことが疎かになってしまう児童が多くいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体を動かすことに意欲的な児童が多い。 ・うまくできることに喜びを感じる児童が多い。 ・用具の片付けを進んで行う児童が多い。

	<p>改善のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習のめあてや自分の目標を各時間で明確にさせる。 ・場やグループの設定を工夫して、児童が効果的に技能を身に付けることができるようにする。 ・单元ごとに、主運動につながる補助運動に継続的に取り組ませて、基礎的な運動技能を身に付けることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小グループでの活動で、友達同士でアドバイスし合う活動を継続的に取り入れる。 ・技能のポイントと自分の課題を照らし合わせて、めあてを設定する場面を設ける。 ・場の設定を工夫し、個々のめあてに合った練習を考えるように指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単なルールや動きから始めて、できるという感覚を身に付けさせる。 ・活動内容やルールなど児童の考えを取り入れることで、児童が主体的に運動にかかわることができるようにする。
5	<p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動技能の個人差が大きい。 ・安全に気をつけながら、運動に取り組んでいる児童が多い。 ・安全に対する知識を生活の中で十分に生かしていない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達のよさを見つけたり、アドバイスをしたりするなど、チームや小グループで工夫して活動することができる。 ・自己の課題に合わせた運動の場を工夫することが難しい児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体育への関心が高く、意欲的に体を動かす児童が多い。 ・目標をもって学習に取り組むことができていない児童がいる。
	<p>改善のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・場の設定を工夫したり、グループ学習を取り入れたりとすることで、運動技能の個人差に関係なく、個々の技能を高めることができるようにする。 ・手本動画や自分の試技を動画で確認することで、技能ポイントを視覚的に見つけられるようにする。 ・授業開始時に安全面の確認をし、学習規律を徹底することで、安全に運動できるようにする。 ・健康についての学習は、定着を図るために、身近な生活と関連付けて進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・チームで相談、練習する場を設定し、めあてを意識した練習方法や作戦を考えるようにする。 ・練習するための場を複数用意し、自己の課題にあった練習ができるようにする。 ・友達同士で互いに見合い、よさやアドバイスを伝え合う授業場面を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動量を十分に確保することを意識して授業を行う。 ・自分の試技など、動画を撮り共有することで、意欲喚起につなげる。 ・学習カードを用意し、めあてや振り返りを書くことで、自己の課題を明確にし、一人一人が目標をもって学習に取り組むことができるようにする。

6	現 状 <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な技能を身に付けている児童が多いが、運動の内容によって個人差は大きい。 ・漫然と活動に取り組んでいる児童が多い。 ・安全に気をつけながら、体育の学習に取り組んでいる児童が多い。 ・健康に対する知識を生活の中に十分に生かしてきていない児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達よさを見つげたり、チームで工夫して運動したりする姿が少ない。 ・自己の課題に合わせた活動の場を工夫できない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体育への関心は高く、意欲的に体を動かす児童が多い。
	改 善 の ポ イ ン ト <ul style="list-style-type: none"> ・楽しく活動できる場を用意し、意欲的に取り組めるようにする。 ・自分の目標を明確にさせる。 ・学習の前に安全面の確認をする。 ・健康についての学習は、身近な生活と関連付けて進める。 ・動画の視聴や撮影を活用し、自分の試技を客観的に見たり、比べたりできるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・チームで相談、練習する場を設定し、めあてを意識した練習方法や作戦を考えさせる。 ・課題と練習の場をリンクして考えられるよう、学習カードを工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全員の運動量を十分に確保できる指導内容を工夫する。 ・ルールを徹底し、全員で取り組む楽しさを意識する。